

9 鳥獣害対策

獣害の防ぎ方

獣害は各ほ場単位で電気柵、トタン、ワイヤーメッシュなどで囲うことにより、被害を低減することが可能であるが、獣種により対応技術が異なるので、加害獣を確認した上で対策を講じる必要がある。

表 防護技術ごとの効果

技 術 名	囲いの高さ	イノシシ	サ ル	シ カ	ク マ
簡 易 電 気 柵	40cm	◎	×	×	◎
簡 易 電 気 柵	180cm	◎	◎	◎	◎
ト タ ン	65cm	△	×	×	×
ワ イ ヤ ー メ ッ シ ュ	95cm	◎	×	×	×
非 金 属 網	180cm	×	×※	△	×
獣 堀 く ん 1 号	60cm	◎	×	×	◎
獣 堀 く ん 2 号	160cm	◎	△	◎	◎
獣 堀 く ん 3 号	180cm	◎	◎	◎	◎
獣 堀 く ん ラ イ ト	172cm	○	△～○	○	○
柵 用 獣 堀 く ん ラ イ ト	135cm	○	×	○	○

◎ 非常に高い効果があり、ほとんど侵入されることはない

○ まれに侵入されるが、実害は少ない

△ 実害を伴う侵入が時々発生する

× 十分な効果は期待できない

※ 「猿落くん」を使う場合は「○」

囲いを管理する際の留意点は以下のとおりである。

(1) 電気柵

電気柵は確実に通電することにより初めて効果を発揮する。いずれの獣種にも高い効果が期待できるが、漏電・ショートによる電圧低下をさけるため、次の事項に留意する。

- ア) 下草が電柵線に触れないよう、刈り払い、除草剤散布を徹底する。特に、獣害の多発時期である夏季は下草が繁茂するため、農繁期であることを理由に管理をおろそかにしない。
- イ) 下草管理の労力を軽減する手法として、柵の下にトタンや防草シートを敷くことができる。ただし、非通電性のゴムシートは電気柵の効果を低下させるため、使用できない。
- ウ) 最下線の高さは概ね 20cm、次線を 40cm とする。最下線の高さは決して 25cm 以上としない。水田では水口、水尻の部分、畑地では傾斜が急に変化する部分などで下の隙間が広がりやすい。隙間ができてしまった場合には、その部分に電柵線を増設して段数を増やすか、支柱を増設して傾斜・隙間に沿わせて線を張るようにする。

- エ) 通電を確保するために、テスター（電圧測定器）により定期的に確認する。2000Vを下回った場合には直ちに漏電、ショート、電池・バッテリーの寿命を確認する。テスターが無い場合にはイネ科の葉の先端をつまみ、電柵線に先端を当ててピリピリと感じる触覚により通電を確認することができる。ただし、この場合には電圧の測定は難しい。
- オ) 支柱の多くは内部に金属を使用しており、塗装部を通過してショートの原因となりうる。^{がいし} 碍子を固定する金属製のねじに電柵線が触れるとショートするため、線にたるみができただけの場合などは直ちに修繕する。
- カ) 柵が水路と交差する場合には、水路に通電性のれんを用いて侵入を防ぐ。

(2) トタン

廃材を利用すればほとんどコストがかからないことが長所であるが、イノシシに対する侵入防止効果は、他の資材と比較すると劣るため、注意が必要である。

- ア) イノシシはトタンの上下両方から侵入を試みる。下に隙間があると、鼻で押し上げたり、穴を掘って隙間を広げて侵入するので、十分に整地してから設置する。
- イ) 木製の支柱で固定すると支柱が腐食しやすい。風雨に弱くなるだけでなく、イノシシが侵入を試みた際に囲いが倒れる可能性もあるため、腐食したら直ちに交換する。
- ウ) 柵の周辺 2～3mの草刈りを徹底する。イノシシは草むらを好むため、トタンに隣接した茂みがある場合には警戒心を持ちにくく頻繁に侵入を試みる。草刈りの徹底により侵入を試みる回数が減少するため、効果が低下しにくい。
- エ) 効果が低下した場合には、トタンを増設することにより効果を高めることができる。上からの侵入に対してはトタンを縦に 2 枚組み合わせ 1m以上の柵にし、下からの侵入に対してはトタンを L 字に曲げて地面と柵に沿わせるように追加設置する。

(3) ワイヤーメッシュ

建築用の資材であるワイヤーメッシュを利用した柵が近年増えている。トタンよりも高さがあるため、上からは侵入されにくいですが、格子部分にイノシシが鼻をかけて持ち上げることができるため、下からの侵入には注意が必要となる。また、ほ場内がよく見えるため、しつこく侵入を試みる傾向がある。

- ア) 強度は太さ 5mm で 15cm 目のワイヤーメッシュが勝る。既に 3mm 程度で 10cm 目のメッシュを利用している場合には、イノシシが折り曲げることで下からの隙間ができやすく、また上から体重をかけて柵を壊すことがあるため、支柱を通常の倍に増やすなどにより強度を確保する必要がある。
- イ) ワイヤーメッシュは上下 5cm ずつワイヤーがむき出しになっている。この部分を確実に地面に差し込み、隙間のないように設置する。
- ウ) イノシシが持ち上げないよう、支柱への固定は確実に行う。イノシシのオス（成獣）は 70kg 程度の力で持ち上げることができる。
- エ) ワイヤーメッシュの上部 30cm を外側に 20～30 度折り返すことにより、より高い侵入防止効果が望める。

(4) 非金属の網

シカに対してはある程度の効果が期待できるものの、イノシシは網を食い破り容易に侵入する。シカだけが加害獣である場合、または、トタンなどの囲いと併設してイノシシの侵入も防ぐ場合に使用可能。サル用に非金属の網を使用している柵も見受けられるが、支柱を弾性ポールにするなど、特別な技術（猿落くん）と組み合わせない限り効果は期待できない。

(5) 獣堀くん 1～3 号

獣堀くんはいずれも電気柵である。従って基本的な留意点は簡易電気柵と同じである。獣堀くん特有の留意点は次のとおり。

- ア) あぜ波板は強風にあおられ、めくれることがある。風の強いほ場では、マルチ押さえの数を増やしたり、30cm 程度の長いマルチ押さえを使用する。
- イ) あぜ波板が劣化・変形し、地表と隙間が生じるとテンが侵入する。この隙間が生じた場合には、波板の側にクワで土を寄せ、隙間が見えないよう対処する。

(6) 獣堀くんライト

獣堀くん 1～3 号を低コスト、低労力化した柵である。必要最低限の強度で設計されているため、管理頻度は獣堀くん 1～3 号より高くなる。動物が感電・突進した際、防鳥網が破れるためこまめに点検が必要。設置可能面積は 15 アールまでであり、広い面積をまとめて囲うことは出来ない。

(7) 棚用獣堀くんライト

獣堀くんライトが利用できなかった棚栽培で活用できる低コストな柵である。地上 5cm の高さに電線を設置するため、除草管理を徹底的に行う必要がある。